



2017 日本 中国

ティーンエイジ アンバサダー

中国プログラム 報告書

10月16日(月)～10月23日(月)



～この「笑顔」で友情の架け橋を築く～

AEON 1%
Club Foundation

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

日本中国ティーンエイジアンバサダー 中国プログラム

■実施期間：2017年10月16日（月）～2017年10月23日（月）

■実施目的：両国の友好親善の促進とグローバルリーダーの育成

■参加者：①日本高校生70名

筑波大学附属高等学校（東京都）	20名（北京市の高校生と交流）
東京学芸大学附属高等学校（東京都）	15名（北京市の高校生と交流）
岩田高等学校（大分県）	15名（武漢市の高校生と交流）
札幌日本大学高等学校（北海道）	20名（青島市の高校生と交流）

②中国高校生70名

北京市：北京景山高等学校	10名（筑波大学附属高等学校と交流）
北京市三里屯第一高等学校	10名（筑波大学附属高等学校と交流）
北京市順義区牛欄山第一高等学校	15名（東京学芸大学附属高等学校と交流）
武漢市：武漢外国語高等学校	15名（岩田高等学校と交流）
青島市：青島第58高等学校	20名（札幌日本大学高等学校と交流）

■主なプログラム：

①表敬活動：

- ・中国対外友好協会への表敬訪問
- ・三都市（北京、武漢、青島）人民政府への表敬訪問
- ・在中国日本大使館での植野篤志公使との質問会、日本小大使歓迎会

②歴史文化理解・体験活動、他

- ・日本貿易振興
- ・ofo（小黄車）見学、ベンチャー企業サポートセンター見学
- ・万里の長城見学
- ・雑技鑑賞
- ・茶芸体験、お面作り体験、飴細工体験、太極拳体験など

③交流活動

- ・大学訪問（北京大学、武漢大学、青島大学にて実施）
- ・授業体験（北京、武漢、青島にて実施）
- ・ホームステイ、フェアウェルパーティー（同上）

■従来との相違点：

- ①日中両国の高校生がまとめた「日中小大使友好宣言」を在中華人民共和国日本国大使館と北京市政府に贈呈
- ②北京大学、武漢大学に初訪問
- ③北京テレビ局からの初密着取材（記者1名、カメラマン1名同行）
- ④本事業をきっかけとして、札幌日本大学高等学校と山東省青島第五十八中学との間で姉妹学校を締結



・北京市人民政府外事弁公室歓迎会

日 程：2017年10月16日（月）

主催者：北京市人民政府外事弁公室（熊九玲主任、高志勇副主任、謝約処長など出席）



■熊主任スピーチ抜粋

2009年9月に開始されたこのプログラムは1,000名を超える高校生が参加し、お互いに理解を深め、中日両国の友好の架け橋になっています。かつてフランスの作家 デュマは言いました「自信と希望は青年の特別な権利である」と。皆さんが自信を持って真摯に観察し、体験する事を期待しています。



■日本小大使代表スピーチ

中国とはどのような国なのか、どのような人々が住み、どのような暮らしをしているのか。その経験をしっかり日本へ持ち帰りたいと思います。貴重な体験を小大使としてたくさんの人々へ伝えていけたらと思っています。この8日間が両国にとって、私たちにとって永遠の絆となることを確信しています。

——岩田高等学校 女子学生



・中国人民对外友好協会表敬訪問

日 程：2017年10月17日（火）

表敬相手：中国人民对外友好協会 宋敬武 副会長



↑ 記念写真



↑ 日本小大使代表より記念品の贈呈

民間友好は 中日関係の素晴らしい伝統です。
 中日友好の基礎は民間にあり、希望は青少年の中にあります。
 中日国交正常化の実現は、両国の古き良き先輩たちが先立って行動し、民を持って官を促すという絶え間ない努力から生まれました。
 中日両国の輝かしい未来は、両国の高校生が手を携えて前進することが必要だと思います。
 ——中国对外友好協会 宋敬武 副会長

■ 日本小大使からの質問

Q. 両国の関係に影響を与えているのは大人なので、大人が交流したほうが日中関係により影響を与えるのではと思ったが、それでも学生の交流に力をいれているのは何故なのかお伺いしたい。

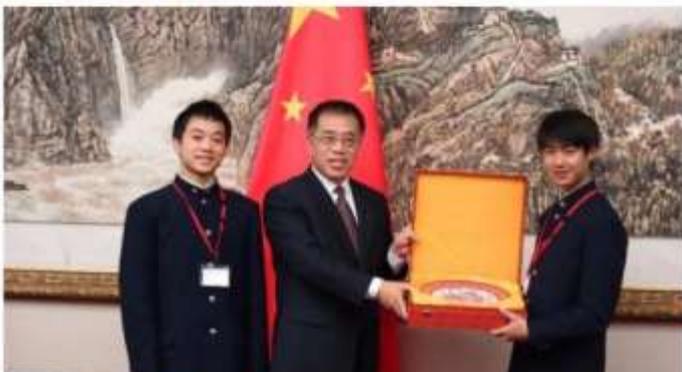
A. なぜ青少年交流を重要視しているかと言うと、中日両国の青少年は中日両国の未来であり、このような交流をきっかけに中日友好を先祖から次の世代へと伝えていって欲しいという想いがあるからです。



・北京市人民政府表敬訪問

日 程：2017年10月17日（火）

表敬相手：北京市 王寧 副市長



皆さんは、中日両国の友好交流の継承者になって欲しいと思っています。中日友好は容易なものではありません。これまで両国の指導者や有識者が多大な心血を注いできました。

脈々と続く中日両国共通の願いを私たちは大切にしなければならぬのです。

——北京市人民政府 王寧 副市長

↑ 記念品贈呈



↑ 記念写真（二列目中央は王寧副市長、中央の左からは横尾博理事長、古澤康之総経理、中央の右からは熊九玲主任、高志勇副主任、謝約処長）



■ 日本小大使代表スピーチ

私達は、日本で日頃からテレビや新聞、本などを通じて、中国の文化や歴史、経済など様々な情報を見聞きしています。しかしそれらの情報は、ごく一部の上辺なものなのかもしれません。中国小大使の皆さんとの日本での交流を通し、中国の友人をより深く理解することが出来たのと同様に、今回私たちは中国訪問という貴重な体験を通じて、中国についてより深く理解したいと思います。

——筑波大学附属高等学校 女子学生

・在中華人民共和国日本国大使館質問会

日 程：2017年10月17日（火）

表敬相手：植野篤志公使



Q. 中国の政治を知るために、どのようなことにアンテナを立てていますか。また、相手の言語をわかっていただ方がいいのでしょうか。

A. 一つ目は、中国の政治の制度を知ること。二つ目は、中国の指導者の人たちがどういう経歴で、どういう専門分野を持っているか。指導者について調べること。三つ目には、中国国民の関心の所存を知ること。こうしたアンテナを張って、できるだけ多くの人に会って、話を聞いて、今中国で何が起きているのか、何が起ころうとしているのかを観察するのが我々の仕事です。

言語については、当然多くの人のお話を聞いたり、本を読んだり、テレビで報道されていることを知る為にはやはり言語は出来た方がいいと思います。特に中国は文字の国で、我々と同じ漢字を使っているにもかかわらず微妙な表現の違いが大きな意味を持つことがあります。したがって、単に漢字を勉強するだけでなく、中国語の表現に含まれる意味とか、表現の持っている背景や歴史とかそういうものまで解るようになるとうまいと思います。

Q. 先ほど 中国と日本の文化はなり違うとおっしゃっていました。文化の違いをどのように乗り越えれば日中関係をより良くしていけるのでしょうか。

A. お互いの国の歴史や、どういう付き合いをしてきたのかという事を知る事が一つ。それから二番目には、今まさにしておられるように、できるだけ相手の人と交流をして違いを尊重する気持ちを、若いときから身につける事が大事だと思います。

・在中華人民共和国日本国大使館歓迎会

日 程：2017年10月17日（火）



↑記念写真（椅子の中央からは横井裕大使、中国の左からは横尾理事長、四方敬之公使、近藤良策本部長、古澤康之総経理、藤原信幸理事長、山根和征総経理、中央の右からは熊九玲主任、植野篤志公使、高志勇副主任、福田高幹参事官、謝約処長、斎藤匠部長、田中慎也総経理）



21世紀の世界を生き抜いていく皆さんが、日中両国の架け橋になるだけでなく、柔軟な、斬新な発想をもって、共に手をたずさえて、知恵を駆使して世界をつくっていく、世界の未来にとっての架け橋になっていく。

今回の交流がそんな一歩となることを心から期待しております。

——在中華人民共和国日本国
横井 裕 特命全権大使



「人の長所を理解して、それを尊重し、人の短所は忘れるんだ」と三国志の中で言っています。お互いのいい所をさらに認め合って、そして長く付き合う友達になって頂ければと思います。

——公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
横尾博理事長



この活動には1,000名を超える学生が参加し、お互いに理解を深め、友好を促進する使者となりました。この小大使活動は青少年交流の大きな代表例となっているのです。

——北京市人民政府外事弁公室
熊 九玲主任



↑日中小大使友好宣言贈呈



↑中国小大使より横井大使へ書道の記念品を贈呈



↑中国小大使による
楽器の演奏（北京）



↑日本小大使全員による中国語での
「世界にひとつだけの花」の合唱



↑中国小大使による
ダンスの披露（青島）



↑中国小大使による
漢服の紹介（武漢）

・武漢市人民政府表敬訪問

日 程：2017年10月19日（木）

表敬相手：武漢市人民政府 徐洪蘭 副市長



↑ 記念写真



↑ 日本小大使より記念品の贈呈



↑ 徐洪蘭副市長より歓迎のご挨拶



↑ 日本小大使代表スピーチ

・青島市人民政府表敬訪問

日 程：2017年10月19日（木）

表敬相手：中国共産党青島市委員会 鄧雲鋒 常務委員



↑ 記念写真



↑ 日本小大使より記念品の贈呈



↑ 鄧雲鋒常務委員より歓迎のご挨拶



↑ 日本小大使代表スピーチ



↑ 日本小大使による質問

2 歴史・文化体験活動

- ・日本貿易振興機構レクチャー
- ・シェアバイク ofo (小黄車) 見学
- ・万里の長城見学
- ・雑技鑑賞
- ・お面作り、茶芸、飴細工体験
- ・北京大学訪問、武漢大学訪問、青島大学訪問

・日本貿易振興機構レクチャー

日 程：2017年10月16日 (月)

講 師：日本貿易振興機構 北京代表処 経済情報部 藤原 智生 副部長



■日本小大使代表からの質問

中国では世界の工場から世界の市場になったという話を伺ったのですが、この連鎖がどんどん続いていった場合、全世界が市場になりかねないと思うのですが。

——筑波大学附属高等学校 男子学生

■藤原副部長からの回答

工場を一言で言っても、やはり作るものによって適している国というのは違ってくると思います。この国が工場になって、この国が市場になるというよりは、得意な分野の工場の形態で得意分野のものを作っていくというような形になっていくのではないかと思います。

——日本貿易振興機構 北京代表処 経済情報部
藤原 智生副部長



・シェアバイク ofo (小黄車) 見学

日 程：2017年10月17日 (火)



↑ ofo の会社概要を聞く日中小大使



↑ スマートフォンでスキャンを体験



↑ 万里の長城はあいにくの雨



↑ 中国茶を体験



↑ 雑技鑑賞



↑ 中国の飴細工を体験 息を吹きかける日本小大使



↑ お面の色付けを体験

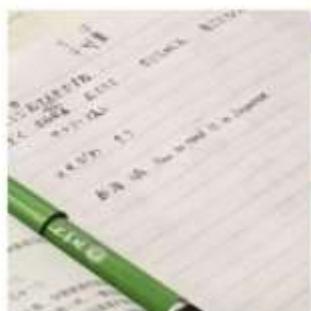
・大学訪問

日 程：2017年10月19日（木）

北京大学 ⇔ 筑波大学附属高等学校・東京学芸大学附属高等学校

武漢大学 ⇔ 岩田高等学校

青島大学 ⇔ 札幌日本大学高等学校



↑ 「新海誠」の読み方を教えてくださいと中国の大学生が書いたメモ



↑ 北京大学にて、日本語学科の学生と交流



↑ 青島大学にて交流する学生達



↑ 武漢大学にて歓談する学生達



↑ 武漢大学キャンパス

3 交流活動

- ・授業体験
- ・ホームステイ
- ・フェアウェルパーティー

※それぞれの活動は、北京、武漢、青島にて実施

・授業体験

日程：2017年10月20日（金）

交流校：	北京景山高等学校	⇔	筑波大学附属高等学校
	北京三里屯第一高等学校	⇔	筑波大学附属高等学校
	北京順義区牛欄山第一高等学校	⇔	東京学芸大学附属高等学校
	武漢外国語高等学校	⇔	岩田高等学校
	青島第58高等学校	⇔	札幌日本大学高等学校

■北京景山高等学校 ⇔ 筑波大学附属高等学校



↑教室にてペアと一緒に記念撮影



↑中国伝統工芸の中国結びの体験をした日本小大使

■北京三里屯第一高等学校 ⇔ 筑波大学附属高等学校



↑クラスメイトに挨拶をする日本小大使



↑北京の伝統工芸である毛猿の体験をする日中小大使

■北京順義区牛欄山第一高等学校 ⇔ 東京学芸大学附属高等学校



↑ 中国の授業を体験する日本小大使



↑ バスケットボールをして友好を深める

■武漢外国語高等学校 ⇔ 岩田高等学校



↑ 中国式ラジオ体操を体験



↑ 学食にて中国の給食を体験する日本小大使

■青島第58高等学校 ⇔ 札幌日本大学高等学校



↑ 水墨画を体験する日中小大使



↑ 姉妹学校を締結



■授業体験感想

英語の授業を受けていて、多くの人に発表をさせてくれる機会があった。日本の英語の授業とは違うところはそこだと思った。発表していた人は、英語の文をあらかじめ作っていたが、見ずに発表をしていたので凄いと思った。

——札幌日本大学高等学校 男子学生

・ホームステイ

日 程：2017年10月20日（金）～10月22日（日）2泊3日

■北京



↑ 食事後にお父さんと男子学生



↑ シェアバイクに乗って散歩するペアの女子学生

■武漢



↑ 黄鶴楼にて記念撮影



↑ スマートフォンを使って一生懸命会話するペア

■青島



↑ 夕飯の餃子作りのお手伝いをするペアの女子学生



↑ 二人乗り自転車であ島の夜景を楽しむペアの女子学生

・フェアウェルパーティー（北京・武漢・青島三会場同時開催）

日 程：2017年10月22日（日）

会 場：クラウンプラザ サンパレス北京（北京会場） 武漢ラマダプラザ天禄ホテル（武漢会場）
青島シービューガーデンホテル（青島会場）



↑参加証明書を授与



↑集合写真（武漢会場）友情は永遠に！のプレートを準備した大分の小大使



↑中国小大使のパフォーマンス（北京会場）



↑ペアとの記念写真（青島会場）



↑ペアとの別れを惜しむ（北京会場）



↑滞在中の映像を鑑賞（武漢会場）



↑集合写真（青島会場）



↑小大使と歓談している
遠山青島総領事（青島会場）

■日本小大使代表スピーチ

皆さんこの1週間はいかがでしたか？きっとここにいる全員が充実した時間を過ごせたことと思います。みんなと同じものを美味しいと思えて、同じ時間を同じように楽しめたことが私にとって忘れられないくらいうれしかったです。もっとも一緒にいたいけれど、今日で一旦のお別れをしなければなりません。私はこんな中国語をお父さんから教わりました。『縁があれば、千里離れていても会える』また必ず私たちは会えるはずです。『謝謝』

——東京学芸大学附属高等学校 女子学生



参加者の声

■日本小大使感想

私はプログラムに参加する前から、将来の夢は外交官になることでした。コミュニケーション能力を身につけその夢に一步でも近づく為このプログラムに参加しました。しかし、中国の人と関わり、その優しさにふれて、一番大切なのは相手を大切に思う事だとわかりました。将来は、中国に何らかの形で関わりたいと思うようになりました。

———筑波大学附属高等学校 女子学生

■日本小大使感想

自分が日本よりも進んでいる国に来ているのか、遅れている国に来ているのかわからなくなった。環境対策の一部分や、イノベーション・起業の支援などにおいては、すごい速さで中国は進歩していて、すでに日本を超えていると思う。中国が日本よりも遅れているという認識を無くして、負けているところは素直に受けとめ、吸収する必要があると思った。

———東京学芸大学附属高等学校 男子学生

■日本小大使感想

高校生になって、「将来」というものが間近に迫っていることを実感しながらも、自分がいったい何をしたいのか、今まではあまりわからなかったけれど、今回のプログラムを通して道が見えたと思います。これから、色々な事に興味をもって、色々な国に行って、それを体感したい。そして、それを教えてくれた中国にこれから何度も訪れたいと思います。

———東京学芸大学附属高等学校 女子学生

■日本小大使代表スピーチ

中国に行き、メディアでの情報しか中国について知らなかった僕は中国での生活がとても大変でした。しかし、だんだんと日本のように心配することが減っていきました。おそらくメディアでの情報しか知らなかった事での思い込みがどこか心の中で中国を嫌っていたのだと思います。ありのままの姿を自分の肌で感じることができました。日本に帰ってこの事をありのまま伝えたいです。

———岩田高等学校 男子学生